第４回　総合計画審議会　会議録		
召集年月日	平成27年12月1日（火）	
召集の場所	白馬村役場2階　201・202会議室	
開閉会の日時	開会	午後2時00分
	閉会	午後3時20分
出席者数	２３名出席	

	区分	役職名	氏　名	出席
出席者	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員（会長）	伊藤　公一	○
	公共的団体の役職員	白馬村体育協会会長（副会長）	山岸　忠	○
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員	塩島　弘之	○
	農業委員会委員	白馬村農業委員会会長	松沢　正猛	○
	公共的団体の役職員	白馬村民生児童委員	矢口　緑	
	公共的団体の役職員	白馬商工会長	杉山　茂実	
	公共的団体の役職員	区長会会長	山岸　弘明	○
	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	横山　義彦	○
	学識経験者	まちづくり白馬友の会会長	松澤　悳也	○
	学識経験者	神城婦人会会長	田中　みつる	○
	学識経験者	北城婦人会会長	眞島　宣子	○
	学識経験者	白馬村スキークラブ会長	太谷　陽一	○
	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	吉澤　豪俊	○
	学識経験者	大北農協白馬支所長	内川　武文	○
	学識経験者	白馬村索道事業者協議会会長	駒谷　嘉宏	
	学識経験者	白馬村観光局長	北村　興二	○
	学識経験者	白馬村ボランティア連絡協議会会長	太田　洋子	
	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	南沢　裕子	○
	学識経験者	白馬村金融団幹事長野銀行白馬支店長	宮島　賢次	○
	学識経験者	白馬村建設業組合長	塩島　正	
	学識経験者	観光地経営計画委員	ケビン　モラード	○
	一般公募	公募委員	宮脇　哲也	○
	一般公募	公募委員	藤田　直子	○
	一般公募	公募委員	冨山　正明	○
	一般公募	公募委員	髙田　愛史	○
	事務局	白馬村役場総務課　課長	吉田　久夫	○
	事務局	白馬村役場総務課　課長補佐	松澤　孝行	○
	事務局	白馬村役場総務課　企画係長	太田　俊祉	○

１．開会

＜副会長＞
　第４回白馬村計画審議会の開会を宣言した。

２．あいさつ
＜会長＞
スキー場も一部オープンしたというニュースも発信でき、白馬村にとっては賑やかになる。これから順調に雪が降ってシーズンが迎えられると思うのでよろしくお願いしたい。
第４回目になるが、前回いろいろ意見をいただいたものを加筆・修正をしたものが出ているので、審議いただきたい。今日はある程度、まとめに近いものを審議していただき、これを含めてパブリックコメントをいただき、委員会の皆さん等に説明した上で最終決定をしていきたい。

３．協議事項　（伊藤会長が進行を務める）
（1）白馬村人口ビジョン及び白馬村総合戦略（案）について
事務局に説明を求めた。
〈事務局〉
資料に基づき説明した。
〈会長〉
修正したところ等の説明があったが、特に人口将来展望の点で、その文言が加わったところがある。目指すべき将来の方向ということで、会議としては人口増を目指すということで決定をして取り組んできたが、どうシミュレーションしても増というのは難しいのではないかということで、まわりくどい言い方になるが、こういった文言でどうかという事務局からの提案。これについて意見を募る。
（意見なし）
＜事務局＞
資料に基づき説明した。
＜会長＞
事務局の説明に対しての意見を募る。
＜委員＞
基本施策の４について質問。指標は山岳観光客見込み数だけになっているが、期間的に冬を避けた以外のグリーン期の観光客数を出してほしい。例えば５月～１１月というように。
＜事務局＞
観光課のほうで出している観光統計の数字であり、１月～１２月年間通してのものであるが、月別に出ているのでそれは可能。
＜委員＞
どういう意味で山岳観光客という数字を出しているかわからないが、村全体での意味での観光客も含めて考えていかなければ、雇用などを考えたときに、山岳観光だけの雇用が生まれるわけではなく、例えば、観光農園とかマウンテンバイクの大会を開くといった新たなことをすることにより観光客を増やし

たり、新たな雇用を作ったりということになると思うので、もっと大きな指標の中で動いたほうがいい。
＜事務局＞
山岳観光客の入り込み数としたのは、具体的な施策、主な取り組みのほうに大雪渓の観光への活用やトレッキングコースの復活みたいなものがあったので、そこから山岳かなということで、その部分だけ別で資料としてあったため設定をした。
＜事務局＞
質問された内容でいくと、山岳という定点にとらわれることなく、幅広い中での呼び込み施策というような捉え方ということで文言は任せてほしい。広くいろんな事業をいくつかの項目で載せて、それはグリーン期という表記がいいのか、それはこちらに任せてほしい。幅広い目標値の設定ということで替えさせてほしい。
＜会長＞
そのように手を加えたいということで、よろしくお願いしたい。
＜委員＞
大人を白馬に呼ぶというよりは、子どものころから白馬を知ってもらうといいと思っていた。小谷村で村内留学、国内留学というやり方で、小谷村が活気があるのは、その子どもたちが小谷に戻ってきていろんな事業を始めている。小谷のよさもあるだろうが、白馬としてそういうような施策を作って子どものころから、宿泊施設も皆さんやっているのでそういうところで子どもたちを育てて、こういう田舎を知ってもらい、白馬に戻ってくるような方法も考えたらどうかと思う。そういうことができるならいいと思う。
＜事務局＞
今の意見については、基本施策４、特色ある学校教育の充実ということでＩＣＴを活用した教育の推進ということで施策を挙げているが、本年度、地方創生の交付金を使っている中で、中学校でＩＣＴ教育の推進ということでやっている中で、子どもたちにパソコン等を使って地域のよさをプレゼンさせるという活動をしたいという計画も聞いている。こういった特色ある学校教育の充実の基本施策４の中に子どもたちに地域のよさを再確認させるといった施策を盛り込むという方法ではどうかと思うので審議いただきたい。
＜委員＞
私の言っているのは、今、白馬に住んでいる子どもたち以上に山村留学というようなことを白馬村としてできるか、できないかということ。
＜事務局＞
山村留学にこだわってしまうと、それしか戦略とする施策がないというようなことになるので、山村留学にとらわれず、それも含めながら使える言葉というのを使いたい。そういうものを包括した事業、施策展開ということで修正をしたいと思うが、いかがか。
＜委員＞
了承。
＜会長＞
特色ある学校教育に入るか、どこに入るか検討していきたいと思う。
＜委員＞

グリーン期の観光で、今だいぶ修学旅行に向けてやっているので、そういう部分で子どもたちの教育ということになるならこういうところへ入れて、数字として出していける部分もあろうかと思ったほうがいいか。
＜会長＞
それも検討してほしい。
＜委員＞
インターナショナルスクールの学校誘致について。インターナショナルスクールは幼稚園、小学校、中学校、高校など、具体的にどのようなかたちを想定しているのか。
＜事務局＞
庁内から提案があったものを載せている。特に内容等については、細かいところは確認していない。教育委員会の意見では白馬高校の魅力化ということでやっているので、そういうことと重なってくるところがあるので、載せないほうがいいのではないかという意見もあるので、そのへんを決めてほしいと思う。
＜委員＞
高校に限定した場合、白馬高校の全国募集に競合することが予想される。今は白馬高校も英語教育に力を入れている。現状としてはまだ存続について見通しがたっていない状況なので、こちらに力を入れて何とか地域の高校が残るということが大事ではないかと思っている。白馬高校の国際観光学科も外国の子どもたちとの交流も十分考慮しているようであるし、もうひとつ心配されるのは、小中高のいずれのインターナショナルスクールにしても慎重な下調べをしないと。仮にこれは失敗は許されないので、入った子どもたちを宙に浮かせるようなことはあってはならない。軽井沢のインターナショナルスクールも６～７年かかっていますので、短期間の中で拙速にノルマを決めてしまうことは非常に心配をしています。十分な見通しがあるうえでならいいが、それが先にくることがどうなのかなと思う。
＜会長＞
白馬高校で新しいシステムが始まろうとしていることもあり、そちらのほうにという意見もある。それについて。
＜事務局＞
白馬高校の魅力化ということでいろんなことをやっていて、ブリティッシュスクール等、そういったところとの交流をしているので、魅力化のところでインターナショナルスクールの誘致ということではなくて文言については考えたい。連携・交流みたいな部分で入れられればと考えている。
＜会長＞
インターナショナルスクールというのはあと。
＜委員＞
これはおもてに出さなくていいと思うが、それとおそらく関係すると思うが、インターナショナルスクールという意味の中に、外国人の移住する方が増えているが、連れてこられるお子さんの教育環境がネックではないかという話があったので、それを含めたかたちでの意味合いではないかと思う。人の流れをつくるというか、外国人を含めた人の流れという中で、受け入れ側として外国人のお子さんがここで安心して教育を受けられる環境をつくるという意味も含まれているのかなと理解した。学校としてつくる話は難しいとしても、教育環境を整備するという考え方で、外国人の方の移住を少しでも気楽なもの

にするというようなシステムを考えていくというところに入れてほしいと思う。
＜会長＞
それはどこかに入れ込むか。
＜委員＞
基本目標１の数値目標が有効求人倍率、目標値２．００となっているが、ＫＰＩの目標を何にするか難しいということは重々理解しているが、そもそもの基準値の１．７６というのが、今、日本全国の平均が１．１５だったと思うが、それに比べてもとんでもなく高い数字で、目標値２．０というと、求人しても求人してもだれも人が来ないよという、事業所にしては非常に困ったことを表す数字なんです、２．００というのは。なので、私の意見としては求人倍率での目標値２．００というのはあまりよろしくはないのかと思う。
＜事務局＞
先ほど、大北管内は有効求人倍率というと、例えばこの１０月は２．９７というような数字で、９月でも２．２２、８月で１．７６という数字になり、７月が２．０５、６月が２．０７ということで２倍を超えている求人数。１．７６は全体の期間雇用も含めての有効求人倍率になっていて、年間を通じて抜き出した数字がこの数字。全国的に１．１５という数字だが、求人自体はかなりの求職者数に対してあるという状況になっている。これを下げた数字は難しいと思う。変えるとすれば、有効求人倍率ではなくて、別の数字にしたほうがいいのかなと思う。
＜会長＞
これに代わる数値何かありますか。代わるものなければこれでいくしかないという感じだが。
＜委員＞
求人倍率２．００なんていうのは、そういう統計は見たことがない。つい先般、長野県下の求人倍率というのがテレビでやっていたが、こんな数字にはとてもならない。
＜委員＞
豊かな生活を実感できる活力は働く人だけが豊かな生活を実感できるという村でいいわけではありませんし、事業所のほうも豊かな生活を実感できる活力ある村じゃなきゃいけませんから、何か有効求人倍率以外の目標値にしていただけないかと思う。
＜事務局＞
今の話の中でいくと、可能かどうかわからないが、例えば村内の事業所とかで新規採用、中途採用もあるだろうが、年間を通じた事業者、もしくは個人事業主も調べるところで、年間の安定した雇用者数が基準値をいくつ。これは調べて数字が出るかどうか、帝国データバンクに照会をかけてやるという方法もひとつだと思うが、それに対していわゆる年間の雇用者数というのをどこらへんに設定するかという見せ方のほうが現実的ということでいいですね。調べられるかどうかは別として、イメージとすると有効求人倍率とするとあまりにも現実と乖離している数字になるので、そのへんを切り替えるということで、こちらで調べてみたいと思う。
＜会長＞
それでどうでしょうか。
＜委員＞
基本目標３に平成３１年の年間出生数が３５０人とあるが、基準値と比べたら概ね６倍近くに膨らむが、

これは合計特殊出生率が１．３になったらこういう計算になるということか。６倍近くに膨らむなんていうのは。
＜事務局＞
この目標値については５年間の累計ということで、年間の平均にすると基準値６３ですが、７０ぐらい。
＜委員＞
この表の作り方がおかしい。５年間の累計値なら累計値と書くべき。これなら目標値は平成３１年でしょ。
＜事務局＞
計画期間５年間ですので５年間の累計。
＜会長＞
もうちょっとわかりやすくします。
＜委員＞
ここで言う図書館というのは、現在ある図書館のことを言っているのか。
＜事務局＞
村長の公約に図書館建設というのがありましたし、この基本施策は図書館建設による情報発信ということで、新しい図書館を想定している。
＜委員＞
むこう５年のあいだに新しい図書館を造らせる、村として造るという仮定ですね。昨日、村長とそういう話をしているが、そんな踏み込んだ話はなかった。４０ページの基本施策５は、目標値に３０００件とあるが、これは５年間でということか。
＜事務局＞
ここはわかりにくいので、わかりやすくします。５年間で３０００件ということで考えています。
＜委員＞
村民が一人ひとりがこういうことをやるようになればいいけれど、１軒の世帯の中で、私がやる、父ちゃんがやる、母ちゃんがやるというわけにはならないと思う。世帯でいうと、白馬村は３２００～３３００。そうするとほとんどの家がダウンロードしてしまうとこういう計算になるわけで、それは不自然ではないかと思う。
＜事務局＞
先ほどの説明で３０００件、人口の３分の１ぐらいという話をしたが、こちらには外国人向けということも書いてあるので、当然３０００件の中には外国人を含む観光客等も含めてということで、この数字にしている。
＜委員＞
基本目標３の子育ての部分ですが、県も、国もどちらかというと妊娠・出産、子育てというところで言葉が終わってしまっているが、実際、親としては、実はそのあとのほうがお金がかかるし、結局、産んで小学校まで行ったが、やっぱり出て行ってしまうという可能性もあり、都会と比べるとこういう田舎にいたら教育ができないんじゃないかという不安を持つ。もう少しあとになった時の、中学、高校ぐらい……、もうちょっと切れ目のない支援、現金や税金、休業手当、余暇、住居、交通などバランスの取れた支援とか、どれかひとつにだれかがはまるということではなく、だれもが何かにはまるために多岐

に渡った支援が、自分は専門ではないので提案する手立てがないので申し訳ないが、子育てのときはいいが、そのあとはサポートは無理なんだと感じるのではと思った。
＜会長＞
今言ったように、どこか包括的に今のことを入れられることがあったらお願いしたい。
＜事務局＞
今の話の中では、幼児から小学生ぐらいの期間、中学から高校の期間というのは取り組み施策は変わってくると思う。中高は魅力ある教育というものにシフトすると思うので、村外に出て行く人もいる。逆に言うと、幼児から小学生ぐらいの間の話を聞くと資金的なものという感じを受けたので、そのへんに絞って言葉を入れられるか検討したいがよろしいか。
＜会長＞
ほかには。
＜委員＞
基本施策３の結婚サポート事業の目標値、２７０、４７０、６０件という数値を説明してほしい。
＜事務局＞
資料を作るときに、おそらく間違いだと思う。目標値については直したい。
＜委員＞
ここではサポート事業もあるだろうが、婚活事業によると限定しなくてもいいかなと思う。婚姻数だけだったら現在の数値も出るのかなと思うので、婚姻数を増やせばいいということで、それのサポート事業として婚活事業をするということで、婚姻数を増やすということがすっきりしていいのではないかと思う。
＜事務局＞
ご意見いただいたので、基準値については調べて婚姻数ということで支援目標値設定したいと思う。
＜委員＞
ＰＤＣＡサイクルについて質問したい。庁内、役所内でどのように確立するかというイメージはあるのか。
＜事務局＞
現在、総合計画の関係でいくと、いちばん下に自主計画という計画があるが、自主計画については年に１回の見直しを行っている。前回も意見をいただいたが、ＰＤＣＡサイクルについては基本的にはサイクルとしては最低でも１年に１回行うべきだと考えている。ＰＤＣＡの実際のチェックについては、現在は各担当課の研修が必要だと考えているが、このあと検証結果について委員会を設けて研修をする必要があるのかどうかという部分についてはもう少し検討したい。基本的には１年に１回を考えている。チェック方法については庁内で検証をし、結果についてどうフィードバックしていくかについては検討したいと考えている。
＜事務局＞
補足します。２年ぐらい前までは、各種事務事業については事務事業評価という庁内の評価をやったあとに、いわゆる事務事業評価の委員に検証してもらっていた。来年からは第５次総合が始まって、なおかつ総合戦略もこれで動き出す。総合計画も、先ほど言ったようにそれぞれの施策が出てくるので、毎年この事務事業に代わるようなものを検証というところに充てるのもひとつの方法だと考えている。５

年ごとの総合計画のたびに、検証、検証という話が出るので、それをこれを置き換えることにより、検証作業が５年分をまとめてやるよりは結果として出るのではないかという考え方も庁内ではある。
＜委員＞
ＰＤＣＡサイクルはとても重要なことなので、できるだけ客観的に検証できるものではないかと思うので、庁内だけではなくて、外部の有識者入れるなど、工夫をし、客観的な評価を出せるようにしてほしい。
＜委員＞
先ほどの図書館の件だが、基準値のところは何も入っていないが、今の図書館の実態はどんなものか。
＜事務局＞
新規のものを想定して目標値を設定している。今現在のところは新ということなので、確認していないのでこの場では答えられない。
＜会長＞
何かの機会に調べてほしい。
＜委員＞
この数字にどういう意味があるかはよくわからないが、図書館単独のものを造ることにはならないと思う。複合施設。複合施設だけど、図書館だけに行く人の数をこれは言っているのだと思うが、図書館だけの数字だとしても、一日２０人というのは相当控えめな数字ではないかというように見えてしまう。
＜事務局＞
一日２０人とおっしゃったが、３０人。それも控えめ過ぎるという話になるかもしれないが、今の現状の図書館の来場者があるのか、それを踏まえて数字は見直しをしたいと思う。
＜事務局＞
先ほど、図書館の建設という話が出たが、この総合戦略というのは、ご存じのとおり、国のほうで、各市町村の努力目標とは言いながら、それぞれ総合戦略を策定しろというふうに考えられている。この総合戦略に伴って、いろんな事業をひかえるという部分も交付金の対象となってきている。ここで見出しで出ているのは、公約にあるからというのもあるが、図書館自体の利用のし勝手が悪いというような話もあるので、この５年間の中でやるというよりは、やれるものをいろいろな施策として挙げて、その中でいろんな対象となる事業を採択されればということなので、総合戦略は総合戦略、予算は予算と、実施計画というものがあるので、実施計画は予算に反映した計画となってくる。その使い分けというのも行政側としては若干リンクを全くしない部分ではないが、少し離れた計画ということで理解をいただきたい。
＜委員＞
私はここに出ているが、総務課長からそういう説明があれば理解はできるが、これをこのまま村民に何らかの手段で示してコメントを求めるといったら、今のような話にはならないと思う。村長もあちこちで話されていると思うが、箱ものをいっぱい造るのはなんだから言うので、複合施設として造りたいというアイデアがあると思う。総合戦略というのは国からお金をもらうためのものだから、これでいいじゃないかというふうには村民はならないと思う。コメントを求めるとしたら。そうすると、白馬村総合戦略というのはなにものかというのを十分説明しないとなかなか理解されないのではないかという危惧がある。

＜事務局＞
できる限りわかりやすいようにしたい。仮にパブリックコメントでこういうことでどうかという、それはそれで村の回答ということで、それをもって公表したい。わかりやすいという部分については心がけていきたい。ただ、すべてをその中でやると言っているわけではないということだけは理解いただきたい。
＜委員＞
片方で第５次というのが走っているわけで、それとは別に総合戦略というのが出てくるわけで、その感じがなかなか理解されないという危惧をもっている。
＜事務局＞
総合戦略は、基本年度、計画期間が平成２７年度から３１年度の５年間です。第５次の総合計画は２８年度から３２年度の５年間。策定の期間が一緒なので、第１回のときに話をしたと思うが、進める内容は総合計画とリンクをしていくという部分のスタンスはこれまでどおり変えていない。第５次の中に新たに加わる施策というのは、どちらかというとキーパーソンのインタビュー。そういう中から出てくるものは施策として反映するというようなかたちになると思う。そうすると、先行して造った総合戦略はどうなるかというと、毎年見直しと検証をして、そのタイミングでそのときに合った内容に変えていくという作業が出てこようかと思う。第５次が先行していると、逆に総合戦略のほうが先行しているとご理解いただきたい。
＜事務局＞
図書館の関係ですが、私の考えていた数字より多い来館者数があるということでびっくりしている。平成２６年度で開館日数が２６０日。来館者数が１万２８０９人で一日平均で５０人弱。これを踏まえてもう少し高い来館者数でいいということであれば、それなりの数字にしたいと思う。
＜会長＞
割と高い利用率だということで、目標値はもう少し見直すということになる。
＜委員＞
内容的なことは議論してそのとおりでいいと思うが、資料の確認、整理で、今回の資料の基本目標２　～白馬村への新しい「ひと」の流れをつくる～。Ｕ・Ｉ・Ｊターンの促進ということで、これは前回資料がなくて、こういう副題をつけて整理をして、前回の資料のここの項目の基本施策の２とか３は基本施策の１の中に組み込んだということですね。（２）地域資源を活かした教育の推進ということで副題をつくって、基本施策４とあるが、これは基本施策２にならなくてはいけないのではないのかなと思うが、それでいいのか。その次に３がきているので、先ほど答弁していた資料を修正するときの間違いでいいかどうか。
＜会長＞
そのとおりだそうです。審議は終了。意見を修正したものを一般の村民に出してパブリックコメントをいただくという段取りになるのでよろしくお願いしたい。

（２）その他

＜事務局＞

これで総合戦略は修正をして、コメントをいただくということにしたい。総合戦略の基本施策はだいぶ固まってきたので、いよいよ総合計画の審議をお願いしたい。こちらの計画について、前々回の審議会の中で総合計画について４本の柱、そちらのほうは総合戦略と重なる部分があるので、その部分に収まらないところについては新たな柱をつくるというかたちで、基本計画の大綱を組み立てていかなければならない。こちらのほうである程度整理をして、各委員にキーワード的なものを配りたいと思う。文言をプラスしたほうがいい、修正したほうがいいというようなことがあれば事務局まで寄せてほしい。Studio－L が村内でキーパーソンインタビューを行っているので、それも意見をまとめて計画に反映していくようになると思う。

＜委員＞

１１月２８日のニュースで、内閣府から地方創生加速化交付金というのが新たに１０００億円程度、平成２７年度補正予算として計上する方向で調整を進められているので、個人の意見だが、せっかく地方版総合戦略が行われているので、この地方創生加速化交付金というものを利用して総合戦略なり総合計画を身のあるものにしていったらいいのではないかと。自治体から申請をしないともらえないというものであるので、総合戦略を充実したものにするためにも検討していただき、交付金を引っ張ってこれるようなことをしていきたいという気持ちでいる。

＜会長＞

委員から提案があったが、役場的には情報なり何かあるか。

＜事務局＞

今のところは詳しい要件とか、情報はこちらには入ってきていないが、近いうちに長野県を通じて連絡がくると思う。昨年は地方創生の交付金があり、各市町村に数字がきたものがあったが、今回はおそらく先駆的な条件もついているので、こちらのほうから提案をして、その提案によって採択が決まったり決まらなかったりという部分があると思うので、対応をしていきたい。

＜事務局＞

予算のタイミングとすればすぐに１２月議会が始まるので、１２月補正には間に合わない。当然ながら総合戦略は１２月中に策定ということで進めているので、２６についてはある程度１０分の１０、２８については交付金が２分の１というような話も情報が出てきているということで、２７の事業については、８月末までにあげると１０月に交付●●タイプ１の上乗せタイプ。それは予算の振替事業はだめということになるので、同じ形態でくるとどこかで財源を生み出しておいて、２７かおそらく２８が繰越の手続きがきていると思うが、そのテクニック上のところをもう少し見極めていきたい。飛びついたはいいが満額貰えないとか、２分の１負担が出るということになると、予定しない事業ということになるので、財政上の交付金自体がどういうかたちでどの割合でくるのか、それも含め対応を考えたい。おそらくそれで合致をして予算の組み立てになると３月の議会というタイミングになろうかと思う。

（「前向きに考えてほしい」の声あり）

４．閉　会

＜副会長＞

　閉会を宣言した。